

2020 年度 日本財団助成事業

オンラインによる難病コミュニケーション

支援講座の開催（covid19 支え）

報告書

・ 目的

ALS 等の難病患者は、病気の進行によりコミュニケーションが困難になります。

しかし、視線入力などの最新の ICT を活用することで、日常的な会話が可能になるとともに、家電制御や、メールや SNS などの活用、あるいは仕事を続けることが可能になるなど、社会との繋がりを保つことができます。

そのための支援機器が多種開発されていて、私たち NPO 法人 ICT 救助隊は 2010 年から多種の支援機器を体験できる研修会を全国で開催してきた。

ところが、新型コロナウイルスの影響で集合研修の開催ができなくなりました。オンライン研修に移行したいと思いましたが、支援機器の体験をどうするかが課題でした。

そこで、参加者に支援機器をパッケージにして貸出をし、自宅等任意の場所で支援機器を体験しながら、オンライン研修を受けられるシステムを作りたいと考えました。参加者は貸出期間中、自由に機器を体験することができるため、集合研修に比べ地域や時間の限定がなくなり、より多くの支援者養成が可能になりました。



【ICT 機器を操作するためのスイッチ類】

スペックスイッチ	10 個
ジェリービーンスイッチ	10 個
ピエゾニューマティックセンサー スイッチ	10 個

残存機能に合わせて、適切なスイッチを選択することで、機器の操作が可能になります。

脳性麻痺のように動きをコントロールできず強い力で押してしまう場合は面積の広い頑丈な接点式スイッチ、ALS のように目に見えないくらいわずかな動きを拾う場合はセンサースイッチなど、スイッチの特徴や設置についての知識が必要です。





【視線センサーとパソコン】

パソコン	10台
視線センサー	
TM5	10本
PCEye5	10本
アイトラッカー5	10本

ここ数年で、視線入力が目覚ましい進歩をとげ、患者が使う意思伝達装置の主流になりつつあります。

視線センサーや意思伝達装置の種類が増えたことで、患者は選択肢が増えましたが、その分支援者も多種多様な知識が求められるようになりました。



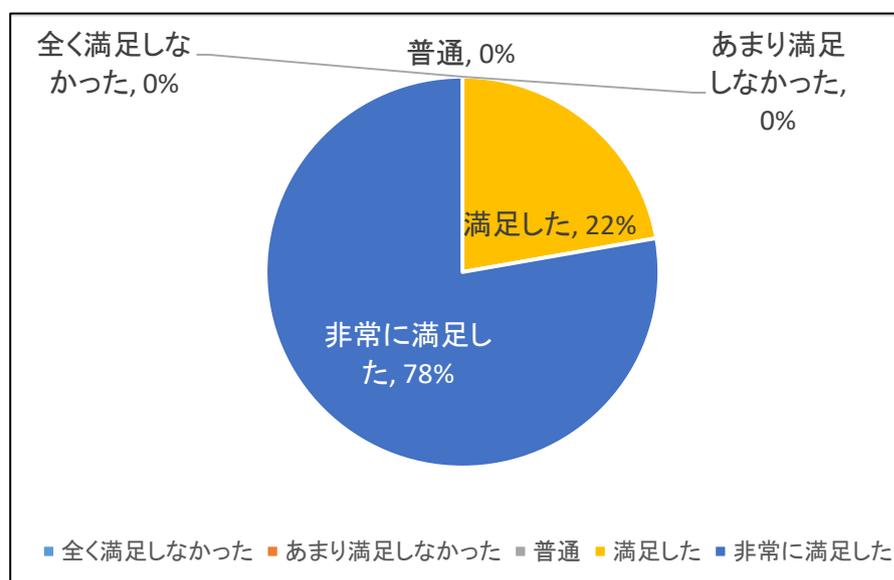
・開催実績

2020年10月から3月末までにZoomを使ったオンライン講習会を17回開催しました。
参加者数は延べ192名でした。

日付	参加者数	内容
2020年11月10日	4	iPadのアクセシビリティとスイッチ操作
2020年11月17日	4	iPadのアクセシビリティとスイッチ操作
2020年12月1日	4	iPadのアクセシビリティとスイッチ操作
2020年12月5日	36	神経難病のコミュニケーション支援
2021年1月23日	7	意思伝達装置とスイッチについて
2021年2月2日	10	ゲームではじめる視線入力
2021年2月3日	10	ゲームではじめる視線入力
2021年2月6日	17	意思伝達装置とスイッチについて
2021年2月17日	9	視線入力について
2021年2月18日	9	視線入力について
2021年2月19日	11	神経難病のコミュニケーション支援
2021年2月20日	11	ゲームではじめる視線入力
2021年2月21日	10	意思伝達装置とスイッチについて
2021年2月27日	10	スイッチについて
2021年3月13日	9	意思伝達装置とスイッチについて
2021年3月14日	5	チャレンジスポーツ
2021年3月24日	26	ゲームではじめる視線入力

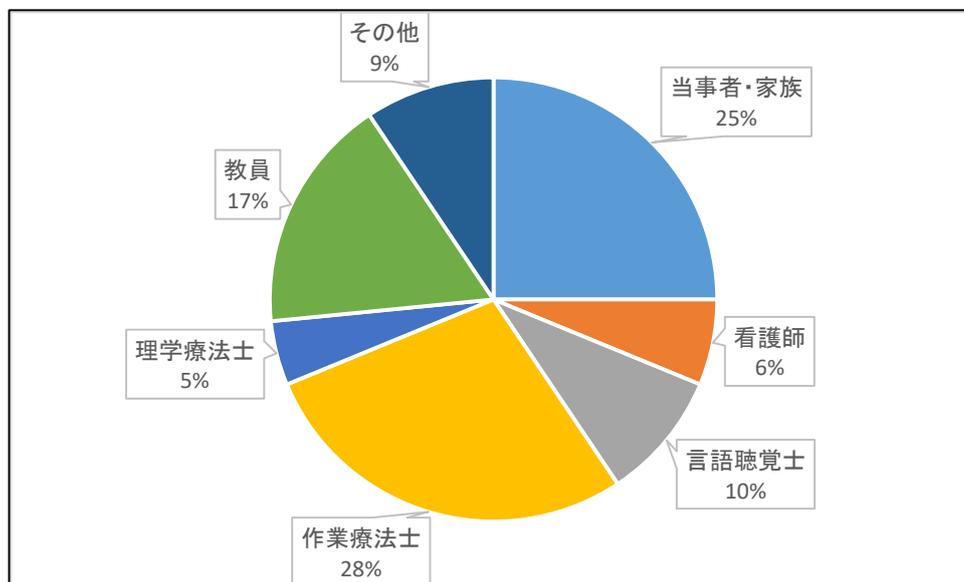
・アンケート結果 (回答があったもののみ集計)

満足度	
全く満足しなかった	0名
あまり満足しなかった	0名
普通	0名
満足した	16名
非常に満足した	56名



職種

当事者・家族 16名 看護師 4名、言語聴覚士 6名、作業療法士 18名、理学療法士 3名、教員 11名、その他 6名



感想

・全くわからない状態だったので理解できるか不安でしたが、機器もお借りできて実際に操作出来るのは理解しやすくてとても良かったです！

・聴講だけではなく実際に機器を触りながら聴けたので非常にわかりやすく理解が深まった。

・意思伝達装置として、実際に日常場面で使用できそうな応用的な設定方法を学ぶことができ、臨床の場でも役立つのではないかと思います。

・多彩なスイッチの使い方があることを知り勉強になった。神経筋疾患で急変して緊急入院してくる患者が多いが、コロナ禍でヘルパーさんが付添出来ない。ナースコールが押せず不安を抱える方が多いので、スムーズにスイッチとナースコールを連動させてあげられるような介入ができるようになりたいと改めて感じた。

・大変貴重なお話を伺うことができました。このコロナ禍でなかなか人が集まらない現状ですが、このような機会を設けていただけたので気軽に参加することができました。

とても理解しやすい講習会でした。Zoom だったのが残念と思っていましたが、少人数で、一人ずつ理解できているかを確認して頂いてから、次に進んでくださったので、安心して勉強することができました。

・成果と課題

成果

・新型コロナの影響で、患者支援の要だった保健師やセラピストの支援が滞ったり、支援者の集合研修や交流の場が減ったりする中、オンラインで機器の体験ができる実践講座を開催できたことで、コミュニケーション支援の継続に繋がりました。

・アンケートでは、「満足した」「大変満足した」という回答が100%だったことから、非常に満足度の高い研修ができたと思います。

・機器を貸出できたことにより、しっかり機器体験してもらえただけでなく、職場の同僚や、支援している患者等にも体験してもらおうケースがあり、支援の底上げに繋がりました。

・オンライン研修で講師を依頼した方々に、テキスト作成にご協力いただき、コミュニケーション支援を網羅したテキストを完成することができました。これだけまとまったテキストはなく、大きな財産だと思います。

課題

・作業量の増大

オンラインによる効率化の反面、多種多様の講習内容や機材の発送による、メンテナンス、機材管理、講座の募集、受講者管理等の作業量が増大しました。今後他団体とも作業分担などを行って、協働で開催していく仕組みを作りあげたいと思います。

・支援機器の拡充の必要性

助成金で機材の拡充はできましたが、数が限られているため、参加者を限定しなくてはなりません。また、新しい機器やスイッチが開発されているので、最新の支援機器を揃える必要があります。今後も支援機器の拡充に努めたいと思います。

研修会を拡大していく中で、オンラインの活用が課題として上がっていましたが、なかなか活用できていませんでした。

しかし、コロナ禍で否応なくオンライン研修を開始し、オンライン研修に多くのメリットがあることを知りました。

研修会の要望も多くきており、2021年度も様々な研修会を企画しています。

コミュニケーション支援の事業を継続、拡大できたのも、日本財団の支援による機器の拡充ができたことによります。

ご支援に深く感謝いたします。

・研修の様子

iPad のアクセシビリティとスイッチ

Information and Communication
ICT救助隊
Technology Rescue Team

ホーム 新申込み



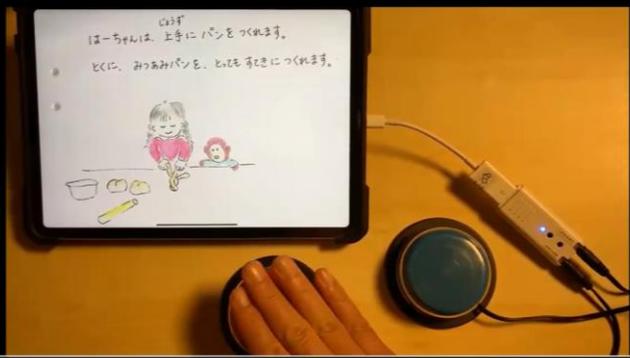
難病コミュニケーション支援講座 iPad編



**定員に達しました。
ありがとうございました。**

OnLine講座iPad編のお知らせ

Zoomのミーティングを使って、OnLineでの難病コミュニケーション支援講座iPad編を開催します。
金曜日夜2時間30分の初級コースです。
これからiPadのアクセシビリティやスイッチコントロールを学びたい方向けの内容です。
講座で使用するiPadとスイッチは事前にご自宅に送付しますので、自由に触ってください。



ペア発表用の仕組み



意志伝達装置とスイッチについて

Information and Communication Technology Rescue Team

IC 救助隊

ホーム 申込み

難病コミュニケーション支援講座
 ファイン・チャットとスイッチ

あかさたなはまやらわ
 いきしちにひみゆるん
 うくすつぬぶむよるん
 えけせてねへめれー
 おそとのほもろ小

Zoomのミーティングを使った、オンライン講座です。
 生産終了となった意思伝達装置スイッチ・チャットの代替機ファイン・チャットがいろいろ発売されました。
 入力スイッチと適合、ファイン・チャットの講座です。
 講座で使用するファイン・チャットとスイッチは事前にご自宅に送付しますので、自由に触ってください。

募集概要

- 日時 2021年3月13日(土) 10:00~15:00 (12時から1時間昼食休憩)
- 参加費 2,000円 (資料代、送料含む)

サポート

20210206 北海道
 ファイン・チャットとスイッチ講座

スイッチの置き方による操作の違い

手のひらが下向き

- 基本的には自然な姿勢で重力に逆らっていない
- 操作圧の軽いスイッチの場合押しっぱなしになりやすい

手のひらが上向き

- 不自然な姿勢で重力に抗して指を動かしている
- スイッチを離す(指を伸ばす)動作が楽に行える

どちらの場合も、MP関節、手関節、肘、肩など他の関節の位置、ポジションを含めた観察と評価が必要です



ゲームではじめる視線入力

メニュー JIMDO

Information and Communication
ICT 救助隊
Technology Rescue Team

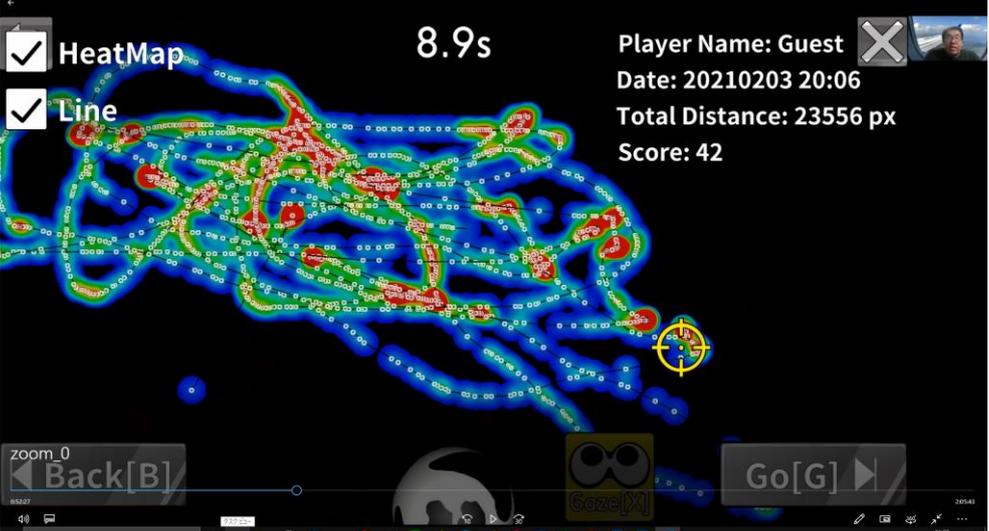
ホーム お申込み



ゲームではじめる視線入力
～アセスメントから実用まで～

OnLine講座視線入力編追加開催のお知らせ

Zoomのミーティングを使って、OnLineでの開催です。
視線入力による支援技術の第一人者島根大学伊藤史人先生に講義をお願いしました。
講義開始してすぐに定員に達したため、追加で開催いたします。
パソコンと視線センサー（Tobiiアイトラッカー5）、EyeMoTボックス1ch/4ch版を事前に自宅に送りますので、
講義を聞きながら体験することができます。
ゲーム用のローコスト視線入力装置である Tobii Eye Tracker 5 を使って、
ゲームによる視線入力からアセスメントから実際の視線入力まで体験していただきます。



HeatMap
Line

8.9s

Player Name: Guest
Date: 20210203 20:06
Total Distance: 23556 px
Score: 42

zoom_0
Back [B]
Go [G]

Zoom ミーティング

レコーディングしています...

